

徳島ペンクラブ通信 第197号

2024年（令和6年）4月1日

発行

徳島ペンクラブ

1967年（昭和42年）創立

令和6年度（2024年度）

◆徳島ペンクラブ総会のご案内

令和6年度の徳島ペンクラブ総会を次の日程で開催いたします。
年一度の会員集会でもありますので、会員の皆様、ふるつてご参加ください。追懐とともに相互の親睦を図り、本会の運営に貴重なご意見・ご教示を頂きたくお待ちいたしております。なお総会終了後、ランチ会食を予定いたしておりますので、よろしければ会食を共に楽しみながら、ご歓談のひとつときをお過ごしください。

記

一、日時 令和6年5月6日 午前9時30分受付

10時 開催

一、会場 阿波観光ホテル 3階ロイヤルパレス

徳島市一番町3-16-3

TEL 088-622-5161

Fax 088-622-2857

一、講演「師 塚本 邦雄を語る」

講師 徳島新聞歌壇選者・徳島ペンクラブ理事

松田 一美 様

一、総会 次第

1、会長挨拶

2、今年度役員紹介

3、令和5年度徳島ペンクラブ事業報告

4、令和5年度収支決算報告

5、令和6年度事業計画

6、令和6年度収支予算書

7、今後の運営に対する意見・助言・提案等

8、閉会

一、ランチ会食

（会食会費 3,000円）

◆新・徳島ペンクラブ賞 決定しました

ペンクラブ選集PART41発行を機に、新しい企画に拠るペンクラブ賞が再発足し、この度、会員の皆様の投票により、受賞作品が決

- 1ページ 総案内・徳島ペンクラブ賞・感想懇談会
- 2ページ 県民文化祭・とくしま随筆大賞原稿募集・各賞受賞者紹介 新会員紹介
- 3ページ 秋の文学散歩案内・徳島ペンクラブ選集特集案内・ひとりとご欄
- 4ページ リレーエッセイ。ほんの散歩道

定いたしました。なお昨年12月配布の「新・徳島ペンクラブ賞」について「お知らせしましたが、各部門にタイトル賞・企画賞・感動賞の3賞が設定され、評価の焦点が明確に示されるため、文芸高揚の一助となることと思われます。

A部門…随筆、小説、評論、特集等

B部門…俳句、短歌、連句、詩、歌詞、川柳等

ペンクラブ賞受賞者

1、タイトル賞

A部門 「離婚じゃっ!!」

B部門 「空空と」

2、企画賞

A部門 「モモエさんの声」

B部門 「乙女子の」

3、感動賞

A部門 「モモエさんの声」

B部門 「あれが父」

六田 靖子 様

二橋 満璃 様

辻本 一英 様

竹内 菊世 様

辻本 一英 様

松尾 初夏 様

◆初めての 徳島ペンクラブ 選集PART41 感想懇談会 開催

徳島ペンクラブ選集Part41発行と、新たなペンクラブ賞の決定に伴い、本年3月6日、県立文学書道館におきまして第一回感想懇談会が開かれました。ペンクラブ賞各部門受賞作品を主に、その受賞者を交えて、著作の趣意を明らかにして頂くと共に、読者の感想や意見を述べ合い、同時に相互研鑽に資する有意義な時間を過ごしました。参加者は19名。初めての試みでしたが、今後ますます発展させてゆきたいと思っております。



感想懇談会の風景（於 県立文学書道館）

◆県民文化祭分野別プログラム 於徳島県立文学書道館1Fギャラリ

●徳島の未来の文芸を考えるー人工知能を利用した文筆活動について●

昨年11月23日に開催した恒例の県民文化祭の昨年のテーマは、いま話題の生成AIについてです。特に我々文芸に関わる者には、直接関係するChatGPTは最大の関心事となりました。依岡 隆児徳島ペンクラブ会長の挨拶に始まり、西池 冬扇副会長司会のもとでパネル討論会が始まり、最初に4氏各位のAIに関しての所感と現状を述べられ、次いで今後の動向と進むべき方向を示唆して頂きました。最後に参加者からの質問に応じて頂き、実りあるひと時を享受することができました。

パネリスト 里 正彦 様 徳島経済研究所主席研究員

佐々木 義登 様 四国大学教授

鈴木 知真 様 神山まるごと高専教官

宮月 中 様 徳島大学 大学院生

記、この討論会の詳細は、後日議事録が発行されますので、よろしくご照覧ください。

◆第25回とくしま随筆大賞 作品募集

令和6年度徳島ペンクラブ・徳島新聞社共催「第25回とくしま随筆大賞」の募集を致します。心に浮かぶ諸々を、すつと文字に移せばそれは随筆です。初めての方も挑戦してください。皆様ふるって応募くだり、お知り合いの方々にもご紹介ください。応募規定は次の通りです。

一、応募資格 徳島県内在住者または徳島県出身者

二、形式 随筆や主張などの散文形式

三、内容 自由

四、1人1編、未発表でオリジナルであること。

五、書式

1、文字数は、400字詰め原稿用紙4枚以上5枚まで。(作品名・氏名含む)

2、必ずページ数を紙面右下に記入してください。

3、手書きの場合、400字詰め原稿用紙A4サイズ横判縦書き。わかりやすく濃い文字でご記入ください

4、作品1行目に作品名、2行目に氏名を書き、3行目から本文とします。

5、必ず規定の応募用紙に必要事項を明記してください。応募用紙がない場合、別紙に次の必要事項を記入して原稿に添付してください。

①氏名 ②電話番号 ③郵便番号 ④住所 ⑤年齢(学生、生徒の場合学校名)

⑥作品名 (個人情報、本募集に関する以外に使用いたしません)



6、作品は日本語に限ります。外国の方も日本語でご応募ください。
7、作品は郵送に限ります。作品受理後の原稿の返却、原稿訂正はお受け致し兼ねますので、発送前に十分にご確認の程、ご了承ください。

六、作品の送り先

〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目1-13

徳島県教育印刷(株)内

徳島ペンクラブ「第25回とくしま随筆大賞」係

七、応募締め切 2024年6月30日(当日消印有効)

八、入賞発表 8月下旬(予定) 徳島新聞紙上(受賞者には、直接連絡します)

◆受賞おめでとうございます(当会員の方々です。)

文化庁褒賞 芸術文化功労賞

第38回国民文化祭 連句部門 実行委員会会長賞

正倉院展 短歌俳句コンクール 読売テレビ賞

第20回夢道忌俳句大会 優秀賞

第21回とくしま文学賞 連句部門 最優秀賞

優秀賞

竹内 菊世 様
東條 士郎 様
松尾 初夏 様
原田 厚子 様
関 真由子 様
二橋 満璃 様
関 真由子 様
東條 士郎 様
二橋 満璃 様
竹内 菊世 様
早見 敏子 様
鎌田 明日命 様

受賞された方は
編集部にご連絡ください

俳句部門 優秀賞
随筆部門 優秀賞
長町 淳子 様
幸田 清子 様
栗谷 健 様

◆新会員紹介 新たにご入会なさった方々を紹介します。

坂下 英治 様
藤居 光夫 様
星野 凜 様
皆様、ご自由に活躍ください。期待致しております。

◆ 秋の文学散歩のご案内

コロナ禍のために長らく休止しておりました文学散歩を、本年の秋から再開いたします。皆様ふるつてご参加ください。

目的地 徳島新聞社印刷センター(見字)

北島町高房

日時 9月18日午前10時〜12時

人数 60人まで 会費 無料

集合場所等の詳細は、決まり次第、徳島ペンクラブ通信第198号(8月15日発行予定)でご連絡します。

◆ 徳島ペンクラブ選集 特集・一般原稿募集

徳島ペンクラブ選集 Part 42の特集原稿と一般原稿を募集いたします。昨年は事情により、特集を休みましたが、本年から例年通り再開いたします。

特集名は本年度の県民文化祭分野別プログラムの読書キャンペーンに因みまして、「私のおすすめの一冊」

(仮題)の予定です。皆様奮って玉稿をお寄せください。詳細は、徳島ペンクラブ通信第198号に掲載します。

.....

皆生温泉

喜多條 高資

昨夏、皆生温泉(鳥取県米子市)の老舗旅館で働く機会を得た。その旅館の事務室には「苦難は人を向上させる」という張り紙があった。戦国時代に活躍した山陰の麒麟児・山中鹿介の言葉、「我に七難八苦を与えたまえ」を意識してのことらしい。宿泊業界は幾度となく苦難に直面している。その最たるものがコロナ禍だろう。

皆生には人々の魂が「皆、よみがえる(生きる)」という言い伝えがあり、その温泉は海から湧く「塩の湯」である。海岸の散歩は海風と潮の香りが心地よく、仕事を終えての毎日の温泉は至福のひと時だった。

私は定年まで新聞社で働いてきた。サービス業の仕事に就いた経験はほぼなく、旅館では

ひとりごと

数多くの失敗をし、新たな学びと気が付きがあった。

人生で大切なのは新しい経験を積むことだと感じている。年を重ねても様々な挑戦を続けていきたいと思う。

伝統のある徳島ペンクラブに6月に入会したばかり。記者をしてきたとはいえ、文才があるわけがなく、一文一文に苦勞した身である。色々と指導いただければ幸いである。

桜の縁

坂下 栄浩

青森で生まれ小樽で育った私は、幼い時から桜と城が好きだった。家紋も桜。

徳島で就職し、講演が仕事となり、出張で全国の桜と城を見て回ることが出来た。

定年退職後、自治会のお世話をするうち、皆で桜を植える事になった。しかし、伐採した雑木の処分が難題だった。

私の父は自分の前半生の冒険談を、私や我家の客にも度々語っていた。話し方も上手で、「その物語を本に」と言われた。父はお前が書けと言った。父の物語は、歌や小説、映画にも成っている。物語はまだまだ有るが、作者の従兄が亡くなった。そんな時、伐採木の処分で、東條さんと知り合い、徳島ペンクラブに紹介して頂いた。父の声が聞こえる。約束を果す時が来た。

文化という青春に回帰

藤居 光夫

学生時代はそれなりに読書をこなし、6年間は演劇活動に没頭し、あわよくば役者になりたいと思ったこともあった。しかし父の一喝で夢は潰え、地味な土木技術者として社会に出た。昭和40年代後半は列島改造真っただ中、全国を股に昼夜を問わず休み無く働かされ、読書と言えど必要な専門書以外に読んだことも無く、好きな演劇も見られず、まさに文化という言葉とは無縁だった。

会社では重要な立場も任せられ充実したサラリーマン人生だと思っていたが、20年以上の単身赴任を終え退職

し帰ってみると、地域に友人知人は少なく、妻からは多少疎まれる自分がいた。何かないかと考える中、新聞で随筆大賞募集の記事。青春時代に戻った気持ちで文章作りに着手し今に至っている。

市民劇場という演劇鑑賞運動にも参加し、その縁で俳句の会、ペンクラブにも誘われてしまった。まさに文化に没頭する毎日になりそうだ。

同時代の作家

喜島 政行

チェーホフの「かもめ」に登場する小説家トリゴーリンはこう語ります。

「ここにトリゴーリンが眠っているよ。いい作家だった。しかしトルゲーンネフよりは下手だった(湯浅芳子訳)」残念ながら、チェーホフが作家としての地位を固めた頃、トルゲーンネフはすでに鬼籍に入っており二人の交流はなかったようです。

けれどもチェーホフはトルストイとは親交がありました。チェーホフ41歳の時、トルストイと談笑する写真が残っています。トルストイは73歳。

私たちは過去の作品を読むとき、それぞれを全く無関係なものとして読んでいますが、実はそうした作家の間にも親交があったり嫉妬があったりするのではないかと考えると面白いですね。

「ひとりごと」からひとこと

「ひとりごと」欄を初めて提案したのが第193号なので、今号で4回目の掲載になります。このショートエッセイ欄は、会員相互のあけっぴろげの掲示板として何時でも何度でも自由にご利用ください。

皆様の近況報告および心情の吐露の場でもありますので、指名を待つことなくご投稿ください。俳句や短歌、川柳あるいは現代詩もどうぞ。文字数は本号が基準(300〜400字以内)に則って書かれていますが、多少の増減は問題ありません。

(係)

リレーエッセイ

文化財保護と大代(おおしろ)古墳

の思い出

新聞 英毅



私の教員生活の中で、教育行政に携わったのは二度ある。その一つ、徳島県教育委員会文化財課における勤務は青天の霹靂であった。毎日が、聞くもの、見るもの、知るもの全てが新鮮で苦労は多かったが、楽しい、懐かしい思い出も少くない。鳴門市大津町大代にある大代古墳、発掘間もない古墳に出会ったときの驚きと感動は今も忘れられない。

大代古墳は、2000年に四国横断自動車道建設に伴う徳島県埋蔵文化財センターによる事前調査により、道路予定地の尾根上に前方後円墳(全長54m)が確認されたものである。神戸淡路鳴門自動車道の鳴門料金所から板野方面に向かう途中に二つのトンネルが並んで見えその上に古墳がある。前方後円墳は4世紀末に築造されたものである。前方後円墳からは、竪穴式石室とその内部の刳抜式舟形石棺が発掘された。発掘時には、石室内は大規模な盗掘を受けていたが、副葬品のほとんどは少し離れた位置で検出された。大代古墳の被葬者は、香川県津田方面で港湾を掌握していた首長と想定され遠くは畿内方面と関係を持っていたと推測

される。

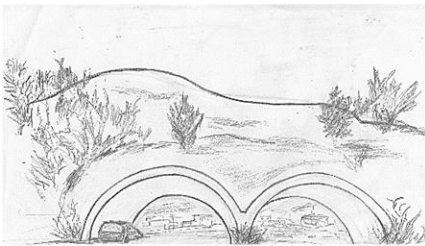
文化庁と京都大学の専門家による調査の結果、歴史的価値が高いと判断され現地保存と決まった。その後建設省(現国土交通省)と日本道路公団は、当所予定していた古墳を破壊するオーブンカットからトンネル工法に変更した。片側3車線となる大断面双設(メガネ)トンネルで大代古墳トンネルという。大代古墳は、国の史跡「鳴門板野古墳群」のひとつである。

文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な財産である。文化財は保護するだけではなく広く市民に公開しなければならぬ。大代古墳は、鳴門市教育委員会が、現地で石棺の原寸大のレプリカを展示して説明会を定期的に実施している。発掘された前方後円墳は、地中に埋まったままで実物を見ることが出来ないのは残念である。

徳島県には、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物など多数の文化財がある。過日、興源寺の徳島藩主蜂須賀家墓所が、何者かによっていたずらをされたようである。若者も含め地域の人が、地域社会に愛着をもつためにも、県内各地にある素晴らしい文化財を次世代に伝承することは大切なことと思う。

高速道古墳見上げて

春の雲



ほんの散歩道

最近出版された方は編集部までご連絡ください。

「飛行船」創刊30号記念号

2007年第一号を発行してから16年。2023年秋冬号は、創刊30号記念号となった。記念特集として、従来の小説や評論のほかに、毎号手に取って購読してくださる方々のエッセイを掲載している。

発行 飛行船の会

A5判

定価 1000円(税込み)



「阿波の歴史小説」《44》

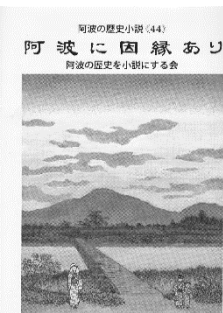
阿波に因縁あり

第44集は、舞台が阿波であることの因縁をテーマにしました。様々な視点から歴史を見つめ、特に阿波という土地柄を見据えた切り口の物語を展開しております。

発行 阿波の歴史を小説にする会

B6判

定価1200円(税別)



あとがき

「島居きみ子」

明治から昭和にかけて活躍した人類学者島居龍蔵を援けて家族とともに中国奥地までも分け入り、自らも女性民俗学者の先駆けとなった妻きみ子と、その生き様を描いた児童書。この書から女性の生き方や、「人類学」を通して争いのない平和な世界のことることを改めて考えさせられる。

著者 竹内 紘子 発行 くもん出版

四六版、ハードカバー、184ページ

定価 1400円(税別)



IT技術が生成AIに発展し、文芸にまでそれを適用する試みが始まった。それを歓迎する声と危惧する声とが同時に上がっている。寺田虎彦さんの随筆の中に、孔子と老子の違いを絵画で諷した面白い話がある。

そびえ立つ富士山の頂に水平線を引いて、それから下が孔子の領域、その水平線を取つ払ったすべてが老子の世界であるとする。つまり孔子は地に足が着くところまで、老子は何の制限もなく、宇宙の果てまで自由奔放とする。これは人間の経験の踏襲しかできないAIと、絶えず自由に想像を膨らませ、無いものを創造創作し、自ら夢を抱き求める人間との対比に似てはいないだろうか？

(栗)